

人の命の重さに触れたとき、  
あなたは何かができますか？

みなさん、AEDってご存知ですか？

AEDとは自動体外式除細動器の略称で、空港や飛行機内はもちろん、駅の構内や街中の公共施設で設置が進んでいる救命機器のことです。これは、専門的な医療知識がない私たちでも扱えるように作られています。が、いざという時、実際に使えるかどうか自信が持てないのも正直なところ。

「1人でも多くの命を救うために、できる限りたくさんの方々々に心肺蘇生法とAEDの使用法を知って頂きたい」と話すのは、帝京大学2年生の渡辺晶絵さん。医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースを専攻し、ここ板橋キャンパスで、学生の自主サークルELS研究会を立ち上げたメンバーの1人です。

「一番つらい人の所に、一番最初に行ってあげられる人になりたい」という思いから、自発的にもっと勉強できるように、先生方に相談し活動を開始しました。救急現場に遭遇したときにすぐ行動できるようになることを目標にしています」。同じキャンパスで、より専門的な二次救命処置を学ぶACLS研究会をまとめる医学部医学科の斉藤有子さんは、薬学部を卒業

した上で、さらに勉強を続けている4年生。「私たちの研究会では、一般の人たちや救急隊員が救護してくれた救急の患者さんを引き受けて、病院内でどう処置を施せばよいかを学びます。いろいろな学科の学生が集まっているので、チーム医療としてお互いの仕事内容を知り、理解を深めあう場としても機能しています。研究会のメンバーには、本当に目の前で人が倒れたときに自分の体が動くようにしたい、何かできる人間でいたいという共通の気持ちがあるんです。そんな活動を後ろ盾してください先生方がいて本当に感謝しています」。ACLS研究会には、去年の夏、街なかで人命を救助した学生がいる。

医療技術学部看護学科3年生の早川範雄さんだ。「偶然通りかかった書店で人が倒れていたんです。近づいて脈を取ったら脈がなくて、呼吸も危うい状況でした。周りにいた人たちがオロオロしているだけだったので、少しでも知識のある自分が必要ならばと、心肺蘇生を行い、AEDを使いました。この部活に入っていたから、自然に動けたんだと思います」。命の重さに触れたとき、とっさの判断と勇気ある行動ができる。帝京大学では、そんな若い人たちが育っています。

feel TEIKYO 

あなたにつながる帝京大学 撮影・木寺紀雄



帝京大学 本部大学PR推進室  
TEL.03-3964-4162  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします  
心地よい写真と情報が満載のキャンパスマガジン「feel  
TEIKYO 2009 Campus Life Ver.」をプレゼントします。  
資料請求先 → 03-3964-4162 (本部大学PR推進室)